

☆放課後子ども教室☆

田んぼに水が入り、真っ直ぐ並んだ小さな青い苗が風に揺れています。美しい田園風景がつけられる季節が今年もやってきました。秋には美味しいお米が実るよう、大きく育ってくれることを願います。

4月後半の放課後子ども教室では、毎年恒例の山菜探しに出かけました。森の恵みを少しだけおすそわけしてもらい、ギョウジャニンニク、エゾエンゴサク、オオウバユリの根、タンポポなどを天ぷらにさせていただきました。子どもたちは「去年はこの辺にあつたはず」と山菜ハンターとしての才能を発揮。年々、経験値が上がっている様子を感じられるのはスタッフ冥利に尽きます。モノづくりプログラムでは、簡単マグネットづくりを実施しました。昨年度末、チャリティーのためにつくったマグネット。やはり自分で作ったものを持ち帰りたかったという声が多かったので、今度は子どもたちが自分のために使える分を作りました。ビーズをつけたり、絵を描いたり、好きな形に切り取って。思い思いに作ったものを、持ち帰る子どもたちはとても嬉しそうでした。



放課後子ども教室では、5月の連休明けからいよいよ新1年生の参加が始まりました。背負うランドセルが大きく見えるピカピカの1年生は、笑顔の中にも緊張の色がうかがえます。自己紹介を取り入れたジャンケンゲームや、体を動かしながらコミュニケーションがとれる遊びをいくつかみんなで行いました。2・3年生が遊んでいる様子を見て、真似て遊んでいるうちに、1年生を包んでいた緊張感も少しずつほぐれていきました。一方、新しい仲間を迎え入れる立場の2・3年生は、色々なタイプに分かれます。いつも以上に大きな声でおしゃべりになる子。カルガモのひな鳥のようにスタッフの後ろについて歩く子。普段よりもささいなケンカが増え、足や頭やお腹が痛くて遊べないと報告に来る子が続出します。これらのほとんどは「私たちのこともちゃんと見て！」という子どもたちからのメッセージだと思っています。新しい子が入ると、スタッフの目はそちらの方に注意がいきがちです。何かあったときにサポートに入れるよう気にかけていることが多いからです。それを敏感に子どもたちは察知します。これは低学年だけではなく、高学年でも同じです。もちろん、上級生が下級生の面倒をみるという、縦の関係を活かす場面もつくっていきたくと思っていますが、いつも頑張ってくれている上級生が甘えられる余白も残してあげることが必要だと感じています。スタッフ間のコミュニケーションをはかりながら、どの学年の子どもたちにとっても居心地の良い居場所づくりに努めていきたいと思っています。

